

日本とドイツの俊英奏者が集結



# ルートヴィヒ・ チェンバー・プレイヤーズ・ シュトゥットガルト

Ludwig Chamber Players Stuttgart

シュトラウスII(ウッキ編):ワルツ「ウィーン気質」op.354

J.Strauss II / M.Ucki: Wiener Blut op.354

J. M. シュタウト(1974-):YATTSU(2021)

日本初演/LCPによる委嘱作品

J.M.Staud: YATTSU (2021) [Japan premier, commissioned by LCP]

\* \* \* \* \*

シューベルト:八重奏曲 へ長調 D803

Schubert: Octet in F Major, D803

ヴァイオリン:白井 圭/エミリー・ケルナー  
Kei Shirai & Emily Körner, Violin

ヴィオラ:ヤニス・リールバルディス  
Janis Lielbards, Viola

チェロ:横坂 源  
Gen Yokosaka, Cello

コントラバス:幣 隆太郎  
Ryutaro Hei, Contrabass

クラリネット:ディルク・アルトマン  
Dirk Altmann, Clarinet

ファゴット:ハンノ・ドネヴェーグ  
Hanno Dönneweg, Bassoon

ホルン:ヴォルフガング・ヴィプフラー  
Wolfgang Wipfler, Horn

2022 10/4 (火) 19:00開演(18:30開場) ● 浜離宮朝日ホール

全席指定:5,000円

一般発売 6/6[月] 10:00~

主催:朝日新聞社/浜離宮朝日ホール/ヒラサ・オフィス

●お申込み 朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990(日・祝除く10:00~18:00)

朝日ホール・チケットセンター

検索

ヒラサ・オフィス 03-5727-8830/イープラス eplus.jp

●お問合せ ヒラサ・オフィス 03-5727-8830

\* 就学前のお子様はご入場をお断りしております。託児サービスをご利用ください。イベント託児マザーズ 0120-788-222(要予約) \* 都合により出演者・曲目等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。





日本とドイツの若手実力派奏者によるアンサンブル、ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ・シュトゥットガルト。室内楽への高い志を胸に2013年に結成。以来、ヨーロッパと日本を中心に意欲的な活動を展開しています。

オープニングには、文字通りウィーンの雰囲気があふれる「ウィーン気質」を、数多くの名編曲を生み出しているウッキの手による編曲でお届けします。2020年にはベートーヴェン生誕250周年を記念してシュタウトに新作を委嘱。初演を予定していた来日公演ツアーがコロナ禍により中止となったため、今回のツアーで日本初演を果たします。

後半はこの編成のオリジナル作品、シューベルトの傑作「八重奏曲」を演奏します。彼らの代名詞とも言えるこの作品に、どうぞご期待ください。

## ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ・シュトゥットガルト Ludwig Chamber Players Stuttgart

2013年、欧州で活躍する日本人若手演奏家とシュトゥットガルト放送響のメンバーたちが、シュトゥットガルトで奇跡的な出会いを果たし、尊敬する作曲家ベートーヴェンにあやかり「ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ」としてグループが結成された。一興奮を呼び起こす名人芸と、心からの演奏する喜びをモットーに、異なる背景を持った8つの個性が彼ら独自の世界を奏でている。

18～19世紀の室内楽作品を中心に、近・現代音楽にも意欲的に取り組むこのアンサンブルは、定期的に日本ツアーを行っている。2013年東京・春・音楽祭に出演、続く2014年はラ・フォル・ジュルネをはじめ全国6都市、2015年は全国6都市のツアーを展開。2016年、2018年にも全国ツアーを行い好評を得た。

ドイツでは、これまでにシュヴェツィンゲン音楽祭や、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス、ベルリン・コンツェルトハウス、そしてベートーヴェンの生家であるボンのベートーヴェンハウスなどで演奏。

2018年からは、シューベルトの八重奏曲を常に演奏できる様、もう一人のヴァイオリニストとしてエミリー・ケルナーを迎え8名編成とし、レパートリーの拡大をめざしている。名称も「ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ・シュトゥットガルト」と改名し、さらに発展した活動をヨーロッパとアジアで繰り広げている。

ベートーヴェン生誕250年である2020年は、この作曲家の名前を冠したアンサンブルにとって特別な年であることは当然であり、同年初頭にはシュトゥットガルトにおいて、フーゴ・ヴォルフ協会と南西ドイツ放送曲(SWR)の共同プロジェクトとして、A.N.タルクマンがこのアンサンブルのために新たに編曲をした、ベートーヴェンの連作歌曲集「遙かなる恋人に」と、M.ウッキの編曲による歌曲「アデライーデ」を、将来が期待されるトルコ系オーストリア人のテノール歌手、イルカー・アルカユレックとともに初演をし、成功を収めた。このプロジェクトは後日CPOレーベルよりリリースされた。

また、当代の作曲家との交流も大変重要なことと位置づけており、このベートーヴェンの記念年に合わせ、今世界的に注目されているオーストリア人作曲家

のヨハネス・マリア・シュタウト氏に作品を委嘱。2020年秋の日本ツアーでの世界初演が予定されていたが、コロナ禍で中止となり、今回のツアーで日本初演を果たす。

これまでに4枚のCDをリリース。2枚目のプロコフィエフを取り上げたCDは国際クラシック音楽大賞(ICMA)にノミネートされた。



### 【地図・交通のご案内】

朝日新聞東京本社・新館2階 (TEL: 03-5541-8710) / 都営大江戸線・築地市場駅下車A2出口すぐ

### 【その他の交通】

- 築地駅 東京メトロ日比谷線(1,2番出口)より徒歩約8分
- 東銀座駅 東京メトロ日比谷線/都営浅草線(6番出口)より徒歩約8分
- 汐留駅 都営大江戸線(新橋駅方面改札口)/新交通ゆりかもめ(改札口)より徒歩約10分
- 新橋駅 JR(汐留口)/東京メトロ銀座線(1,2番出口)/都営浅草線(改札口)より徒歩約15分